

# 点検評価シート



政策1 人権教育

第1項 人権の尊重と権利の擁護

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当	
(1)人権施策の推進	①人権の啓発 ②人権教育の推進	○管理職及び一般教職員対象の研修会の充実 (入間市人権教育研修会3回、西部地区人権教育実践報告会、入間地区人権教育研究集会、入間市人権教育実践報告会を実施)	計画通り実施	計画通り実施	5	5.0	若手・中堅・ベテラン・管理職とライフステージに応じた研修を実施し、それぞれのスキルを向上させることができた。	事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課	
		○入間市人権教育推進委員会による小・中学校で活用できる指導資料の作成	計画通り実施	計画通り実施	5		人権教育に視点を置くことで教員の資質向上に寄与することができた。また、情報提供にもつながった。	事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課	
		○「人権標語」「人権作文」への積極的応募・出品(全小・中学校を対象)	計画通り実施	計画通り実施	5		応募してもらっただけでなく、各校内で掲示に生かすなどの活用が見られた。	事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課	
		○人権問題講演会・フィールドワーク等、研修会の開催	人権問題講演会、フィールドワークの開催	人権問題講演会1回、フィールドワーク1回、人権啓発講座3回の実施	5	5.0	フィールドワークについては、初めての試みとして西武公民館と合同で実施したことにより、経費削減を図ることができた。人権問題講演会についても、108人の参加があり、参加者の感想も好評であった。	講演会の開催時期や講師選定、フィールドワークの視察先選定が課題である。	社会教育課	
		○人権教育推進事業の実施と人権教育実践報告会の開催 (小・中学校PTAによる家庭教育学級・公民館における推進事業)	2校のPTAで各5回以上の開催、人権教育実践報告会1回開催	2校のPTAで各5回開催、人権教育実践報告会1回開催	5		指定PTAについては、各5回実施できた。参加者数は、延べ125人であった。公民館については、5回実施できた。参加者数は176人であった。	人権教育推進事業を学校教育、家庭教育(PTA)、社会教育(公民館)にて実施しているが、人権課題は多岐にわたるため、リーダーとなるPTA職員や公民館職員の育成が課題である。	社会教育課	
		○人権教育推進協議会の開催	3回開催	3回開催	5		「性的少数者の人権に関する教育を目指して」をテーマに、3回開催することができた。	人権教育の円滑な推進を図り、明るい未来の地域づくりに寄与するために、どのような活動ができるか検討する必要がある。	社会教育課	
		○視聴覚教材の購入と貸し出し	人権啓発DVDの購入と貸出	啓発DVD3本購入、他課より1本寄贈、視聴者数3,183人	5		啓発DVDについては3本の購入と1本の寄贈を受け、内容についても充実することができた。視聴者数も延べ3,183人となり、人権啓発の目的を達成できている。	啓発DVDについては、大変高価であるため、多様化する人権問題に対応できるものを精選して購入する必要がある。また、過去に導入したビデオの中には、今後も視聴できる内容のものもあり、これらを新たにDVDとして購入する必要がある。	社会教育課	
		○啓発用品の作成と活用	人権啓発用品の作成	計画通り実施	5		ウェットティッシュの購入を行い、各事業において啓発活動を行うことができた。	啓発用品を配布する機会を増やす必要がある。	社会教育課	
		○県・西部地区・運動団体等が開催する研修会等への参加	計画通り参加	計画通り参加	5		計画通り参加できた。	参加者について偏りが見られる。	社会教育課	
		○人権への意識を高める学習機会の提供	学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	11事業	4.07		実施した場合2点、関係機関等の専門性を活かした事業が実施できた場合1点、参加者が定員の70%を超えた場合1点、参加者の80%以上の人々が満足と答えた場合1点の合計5点満点(左記点数は全館の平均点)。	生活様式の変化や国際化、経済格差、LGBTなど、近年にみられる新たな人権問題にも対応するため、関係機関との連携を深め、人権意識の高揚、啓発に関する事業を実施する。人権教育を推進していくため、事業の実施体制を見直す。	公民館	
(2)平和施策の推進	①平和意識の高揚	○戦争体験者等による「平和を願う講演会」を実施(全中学校を対象)	計画通り実施	計画通り実施	5		4.5	各学校が独自の事前指導を行うことにより、より効果が上がっている。	事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○「平和ポスターコンクール」への積極的応募・出品(全小・中学校を対象)	計画通り実施	計画通り実施	4			平成30年度の応募は319点だったが、令和元年度は72点に減少した。今後は、校長会への丁寧な説明が必要である。	事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課

政策2 生涯学習  
第1項 生涯学習の推進

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学習環境の充実	①学習情報の提供 ②学習機会の充実	○生涯学習情報紙「かがやく」の発行	年2回の発行	計画通り実施(2回発行)	5	4.8	編集ボランティアの協力により、停滞なく編集され、4月1日号、10月15日号の広報いるまと同時配布し、広く市民に供することができた。	広報紙の同時配布物削減計画により、平成30年度から「かがやく」を広報紙への折り込みとした。	社会教育課
		○インターネット等を活用した学習情報の提供	市公式HPに加え、生涯学習をすすめる市民の会のHPを立ち上げ、様々な生涯学習情報を提供する	ほぼ計画通り実施	4		ホームページの情報に関しては、頻繁な更新を心掛け、新しい情報の提供ができた。	「いるま学びの場」(生涯学習サークル・教室情報一覧)に関しては、平成28年度まで市公式HPから欲しい情報を選択できる形式であったが、平成29年度からHPの構築方法が変わり、コンテンツが表示されなくなっている。利用しやすくなるよう改善に努めたい。	社会教育課
		○「生涯学習茶の都出前講座」の充実	年間40回以上の実施	計画通り実施(41回実施)	5		昨年度に引き続き、入間市の歴史や地理、お茶に関する講座の受講が多かったが、危機管理に関する講座の需要も増加した。	受講講座の偏りを防ぐためにも、掲載制限のある紙媒体だけでなく、WEBで各講座の良さをアピールする等、広報に努める。	社会教育課
		○「生涯学習ガイドブック」「いるま学びの場」の発行	生涯学習ガイドブック(上・下半期)、いるま学びの場(8月発行)	計画通り実施(ガイドブック2回、学びの場1回)	5		事業目標通りに実施できた。学びの場については、民間カルチャースクールの情報も掲載することとし、掲載ジャンルの拡充を図ることができた。	市民が利用しやすくなるよう改善に努める。	社会教育課
(2)学習活動の充実	①市民の学び合いの促進 ②団体間の連携の促進	○市民活動団体への活動支援	生涯学習をすすめる市民の会が企画・執行する生涯学習関連施策への協働	計画通り実施	5	5.0	まちの先生事業や生涯学習いじばんの整備、定例会・部会への出席など、生涯学習施策を連携して行った。	生涯学習フェスティバルをすすめる市民の会の運営基盤の整備を行っていく必要がある(幅広い年齢層の会員拡充など)。	社会教育課
		○市民団体、大学等との連携事業の実施	生涯学習フェスティバルの開催、子ども大学の実施	計画通り実施 フェスティバル(1回)、子ども大学さやま・いるま(5日間)、子ども音楽大学いるま(3日間)	5		フェスティバルについては、産業文化センターの改修工事に伴い、会場を市民会館に変更したが、例年参加いただいている市民団体の協力により、スムーズに実施することができた。また、子ども大学さやま・いるまでは、定員を超える応募、子ども音楽大学いるまでは、定員を若干下回る応募となったが、とても良い体験学習ができています。	子ども音楽大学いるまに関しては、武蔵野音楽大学の大学機能の移転に伴い、今後の実施に向け、協議を行っている。	社会教育課
		○地域住民が自ら企画運営する事業の支援	学んだことを地域に生かす事業を実施する	9事業	4.57	4.6	左記事業を実施した場合と前年度より充実又はほぼ同様の内容で実施できた場合は5点満点(全館の平均点)。	高齢化により、会議への参加、役員の仕事等を負担に感じる団体が多く、公民館以外の場所で、個々に発表や展示会等をする団体が増えてきている。社会教育団体として、他団体とのつながり、地域還元等の意識が希薄化している。地域の伝統文化を守っていくため、次世代への継承、人材育成が課題である。	公民館
		○世代間交流事業、地域交流事業の実施		23事業					公民館
○地域の伝統文化を守り育む事業の実施	3事業	公民館							

第1項 生涯学習の推進

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(3)学習成果の活用	①学びを活用する 機会の充実  ②学習機 会の充実	○文芸入間の発刊	年1回の発行	計画通り発行(3月1日に42号を発行)	5	5.0	編集委員9人の協力により、第42号が発行できた。	投稿者の高齢化及び減少の問題があり、新たな投稿者拡充に力を入れる必要である。	社会教育課
		○生涯学習フェスティバルの開催	第25回いるま生涯学習フェスティバルを開催	12月1日計画通り開催	5		産業文化センターの改修工事に伴い、市民会館で実施となったが、参加団体の協力により、スムーズに実施することができた。	事業がマンネリ化しないよう、新たな企画立案を図りたい。	社会教育課
		○まちの先生講座の開催	8年目となる「まちの先生」を活用した講座を開催	10月半ばから、11月末の1ヶ月半にわたり、32講座を開催	5		延べ人数230人が受講した。参加者の約96%が「満足」という結果になった。	1講座につき、1回から3回の開催を予定していたが、全6回と全10回の講座を追加した。講座開催決定後のキャンセルが多くであったので、参加費徴収に関する取り決めを強化する必要がある。	社会教育課
	○美術、音楽、演劇、その他芸術の発表会等の開催	学んだことを地域に生かす事業を実施する	56事業	4.71	4.7	左記事業を実施した場合と前年度より充実又はほぼ同様の内容で実施できた場合5点満点(全館の平均点)。	今後、事業を実施していくうえで、新たなボランティアの発掘や育成が課題であるため、実施に向けて検討する。	公民館	
	○地域住民を講師やボランティアに招いた事業の実施		23事業					公民館	
	○ボランティア養成事業の実施		3事業					公民館	
	○各種団体、サークルの地域還元活動を促進する事業の実施		8事業					公民館	

政策3 幼児・学校教育

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実	○新学習指導要領に対応する教材・教具、学校管理備品等の計画的な整備	教材・教具、学校管理備品等を計画的に整備する	計画通り実施	5	4.7	各学校の要望に応じて予算の範囲内で教材備品を計画的に整備し、児童及び生徒の学習全般に活用することができた。また、老朽化した児童・生徒用机・椅子の入替えを行うことができた。	財政状況は厳しいものの、教育環境に支障をきたすことがないよう、計画的な備品の更新に努める。	教育総務課
		○学校図書館図書等の計画的更新	文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率100%	小学校89.66% 中学校82.13%	4		文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率100%を目標とした結果、令和2年3月末の充足率平均は小学校で89.66%、中学校で82.13%となった。	財政状況は厳しいものの、引き続き学校図書館蔵書充足率100%を目指す。	教育総務課
		○ICT機器及びICT環境の計画的な整備	ICT機器及びICT環境を計画的に整備する	計画通り整備	5		662台の校務用パソコンと校務支援システムを更新し、そのシステムを活用して、指導要録や通知表作成など校務の電子化を図ることにより、教職員の負担軽減につなげることができた。さらに、児童・生徒と向き合う時間をより多く確保することや、情報の共有や分析によるきめ細やかな指導や学校経営の改善及び効率化を実現することができた。	GIGAスクール構想の実現に向け、児童、生徒1人に1台の情報端末の整備を目指す。	教育総務課
	②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実 ⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥新学習指導要領への対応	○小中一貫教育をととしての学力向上及び生徒指導の充実	27校で実施	27校で実施	5	4.5	各中学校区で合同研修や、授業公開等を通して、学校種間の指導方法を学び合うことができた。また、生徒指導、教育相談に関する情報交換を密に行うことで、児童生徒理解を深めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校力を高める人事評価制度の推進	全教職員で実施	全教職員で実施	5		人事評価制度を通して教職員の力量を高め、教職員個々の強みや得意分野を更に伸ばさせるとともに、総合的な力量を高めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校評価の充実と積極的な広報	27校で実施	27校で実施	5		全校で自己評価及び関係者評価を実施し、学校だよりなどで公表することができた。その結果を教育活動に活用している。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校評議員制度の充実	27校で実施	27校で実施	5		各校で工夫を凝らしながら、年3回以上評議員会を開催した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○委嘱研究の奨励と学校支援の充実	27校で実施	27校で実施	5		委嘱校においては、着実な研究を進め、学校テーマに即した研究発表を実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○校長会議、教頭会議の定期・臨時的開催及びその充実	校長会議12回 教頭会議4回実施	校長会議12回 教頭会議4回実施	5		事前の資料精査・配付・効果的な説明を心掛け、短時間で充実した会議運営を図ることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○家庭・地域との連携・協働をととした学校づくりの推進	27校で実施	27校で実施	5		PTA活動、青少年健全育成会との連携を指導し、地域に根ざした学校づくりを推進した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○ホームページや教育広報「いるま」の年2回の発行とホームページへのアップ	『教育広報「いるま」』の年2回の発行とホームページへのアップ	7月と3月に実施	5		ホームページや教育広報を活用して、各学校の取組等を情報発信することで、市民に広く理解してもらうことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○コミュニティFM放送、CATVと連携した広報活動の充実	FMちゃっぴーや入間ケーブルテレビ、各学校と連携して実施	計画通り実施	4		学校の話やトピック情報を広く市民に広報することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○教職員の不祥事防止のための研修の充実	27校で実施	27校で実施	4		全校で実施し、チェックリストによる確認、事例研修やロールプレイをととして規範意識を高めた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○各校の実態に即した生徒指導体制の確立とその支援	毎学期の生徒指導訪問と、生徒指導主任研究協議会時に確認	計画通り実施	4		毎学期の生徒指導訪問及び生徒指導主任研究協議会時に、報告・連絡・相談体制が確立されているかを確認し、指導した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実 ②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実 ⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥新学習指導要領への対応	○全校各学期1回の生徒指導訪問による実態把握と学校への支援	小学校16校×3回 中学校11校×3回	小学校16校×3回 中学校11校×3回	5	(4.5)	毎学期の生徒指導に関する訪問を通して、各校の課題を把握するとともに、児童生徒への支援方法について指導助言を行った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「いじめ防止基本方針」に基づく取り組みの推進	いじめ問題調査審議会：年1回 いじめ問題対策連絡協議会：年2回	いじめ問題調査審議会：年1回 いじめ問題対策連絡協議会：年2回	4		いじめ防止基本方針に基づき、調査審議会を1回、連絡協議会を2回実施した。その中で、本市の現状と取組について報告し、各方面から示唆をいただいた。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
		○警察、児童相談所等、関係諸機関と連携した非行防止教室、情報モラル教室、薬物乱用防止教室の全校実施	全校実施	全校実施	5		狭山警察署等による非行防止教室を小学校・中学校の全校で実施した。また、情報モラル教育、薬物乱用防止教室を警察署や通信会社、県青少年課のネットアドバイザー等の協力で実施した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校、さわやか相談室、教育センター相談室、適応指導教室(ひばり教室)の連携による総合的な不登校対策の推進	・月7日以上欠席者の報告：年11回 ・生徒指導訪問時による確認：各学期1回	月7日以上欠席者の報告：年11回 ・生徒指導訪問時による確認：各学期1回	4		月7日以上欠席者を各学校から報告させ、児童生徒の現状やその変化について把握した。それを基に、生徒指導訪問時で確認し、支援方法について助言を行った。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
		○市長部局実施の事業(生活支援課の「アスポート事業」、こども支援課の「一人親家庭の学習支援」)との積極的連携	定期的な情報交換等の実施	年4回実施	5		学校での様子等を情報提供するとともに、アスポートでの様子について報告を受け、児童生徒支援の一助とした。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○幼稚園、保育所(園)、小・中学校への巡回支援とその充実	400回	400回未満	4		回数は目標に届かなかったが、1回の訪問で複数の教員を指導するなど、指導の質は落とさず実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○幼児の通級指導教室「茶おちゃお教室」、小・中学校の通級指導教室の充実	小中学校巡回支援の実施 茶おちゃおは、作業療法士による支援実施	小中学校巡回支援の実施 茶おちゃおは、作業療法士による支援実施	4		茶おちゃおへは、スーパーバイザー巡回支援や心理士の巡回支援でつながった幼児もいる。通級では、授業見学会を実施し、支援の仕方に成果を得ることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「遊びと学びの手引き(本編)」及び「遊びと学びの手引き(安全編)」の活用促進	4月に研修会実施	4月に研修会実施	4		遊びと学びの手引きを利用し、幼保から小への接続について研修会を実施した。なお、遊びと学びの手引きについては、見直しを行い、第3版を配布した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○保・幼・小・中・高の交流、連携の推進	・保幼小中連絡会、小中連絡会の全校実施 ・中高特連絡会の実施	・全校で実施	5		連絡会については、各学校で充実した取組になった。中高特連絡会は、市外の近隣の学校も参加し、充実した会になっている。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○特別支援学校との連携の推進(入間わかさ高等特別支援学校、狭山特別支援学校、日高特別支援学校等)	各学校の実態に応じて実施	計画通り実施	4		支援籍学習や支援学校のコーディネーターの派遣、学校見学等を行い、連携を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○親の学習講座・支援講座の充実	親の学習講座：約80回 親支援講座：年2回	親の学習講座：78回 親支援講座：年2回	4		計画通り実施できた。より多くの保護者の方に参加していただけるよう、対象者を広げて実施した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「育ちの記録シート」の活用促進	1歳6ヶ月検診にて配布	1歳6ヶ月検診にて配布	4		就学時健診での配布を1歳6ヶ月健診に改めたことで、育ちの記録シートの活用を、より早い段階から実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○巡回支援、研修会をとおしての保育士・教師等への支援の充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回 ・巡回支援の実施	・2回 ・400回未満	4		研修会や巡回支援を通して、保育士や教師が子どもや保護者に対しての支援の仕方を向上させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○就学援助制度による学校諸経費、学用品費、給食費、校外活動・修学旅行費等の支援充実	申請に基づき、審査のうえ実施	計画通り実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○小・中学校入学時の学用品費の入学前支給	12月と3月に実施	12月と3月に実施	5	計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			
○新入生保護者会の活用や市長部局(こども支援部、生活支援課)との連携による就学援助制度の確実な周知	16校及び各課と連携して実施	16校及び各課と連携して実施	4	計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			
○全中学校区で8月下旬の授業実施とその影響の調査	27校で実施	27校で実施	5	8月に授業を実施することの影響を調査することができた。	調査結果を活用する。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進	○学校指導訪問や授業研究を通じた教職員の指導力の向上(授業分析12の視点の活用)	14校で実施	14校で実施	5	4.5	授業分析12の視点を活用し、マンツーマンでの研究協議を全訪問で実施し、協議内容を深めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小中一貫教育を通じた学習規律の共通化と指導力の向上	27校で実施	27校で実施	5		各中学校区での合同研修や授業公開を通して、指導方法を学び合い、学習規律の共通化を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○ユニバーサルデザインの視点をいかした授業づくりの充実	27校で実施	27校で実施	5		学校指導訪問や研修会等でユニバーサルデザインの視点を生かした授業を学んだ。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「学び合い」「教え合い」等、主体的・対話的で深い学びの視点をいかした授業づくりの充実	27校で実施	27校で実施	3		委嘱研究、指導訪問を活用して指導力の向上を図ることができた。	委嘱研究、指導訪問を活用して、さらに指導力の向上を図る。	学校教育課
		○教科指導員の小・中学校への配置や少人数指導による個に応じた教育の推進	27校で実施	27校で実施	5		県の少人数指導加配や教科指導員を活用し、少人数指導やチームティーチングを推進することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○英語指導助手(AET)の小・中学校配置による外国語教育の充実	27校で実施	27校で実施	3		AETの配置の充実と外国語教育の指導力向上が求められる。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○手引きの作成や小中共通の学習日の設定による家庭学習の充実	27校で実施	27校で実施	3		学力向上スタンダード2(家庭学習のすすめ)を全教員に配布し、家庭学習の充実に取り組んだ。	小中一貫の取組を生かし、さらに家庭学習を充実させる。	学校教育課
		○電子黒板やプロジェクター、タブレット等を活用したICT教育の充実	27校で実施	27校で実施	3		今年度は入間ロータリークラブからの寄贈を含めて、11校へタブレットとプロジェクターを各1台ずつ導入し、授業で活用した。	全校へICT機器を整備する。	学校教育課
		○体系的な教職員研修計画の立案と確実な実施	計画通り実施	計画通り実施	5		目的と計画に則って実施できた。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○教育委員会による学校教育の向上・研究を目指した各種委員会の設置(小中一貫教育研究委員会、不登校対策研究委員会、学力向上推進委員会、体力向上推進委員会、人権教育推進委員会、教育広報編集委員会、入間市就学支援委員会、入間市教育センター運営委員会、入間市博物館・学校連携事業研究委員会)	27校から委員を選出し、成果の波及を目指す。	27校から委員を選出できた。	5		全校の教職員の協力を得て、事業を進めることができた。	変化に応じた委員会の業務の見直しを実施する。	学校教育課
		○経験、ライフステージに応じた研修の充実(小中一貫教育のベースとなる小5担任育成に特化した研修の実施)	計画通り実施	計画通り実施	5		目的と計画に則って実施することにより、若手教員とミドルリーダーの育成に資することができた。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○スクールリーダー及びミドルリーダーの育成を目指した研修の充実	計画通り実施	計画通り実施	5		目的と計画に則って実施できた。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○指導主事の担当制による初任教員に寄り添った丁寧な育成の実施(拠点校指導教員との連携)	計画通り実施	計画通り実施	5		各学期1回以上の授業参観と指導を、計画的に実施し、初任者の育成や情報を共有することができた。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○臨時的任用教員の服務規律の確保とスキルアップを目指した研修の充実	経験1年以内は訪問、2年以内は年1回の研修会を開催	対象者全員に実施できた。	5		服務関係を中心に、教員としての自覚を身に付けさせる研修とすることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○新学習指導要領に対応するための研修の充実	計画通り実施	計画通り実施	5		道徳やプログラミング学習など、新学習指導要領にそった研修を充実させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○学校の全教育活動をととした道徳教育及び人権教育の充実	全27校全体計画の作成	計画通り実施	5	各学校で工夫を凝らして、道徳教育及び人権教育の充実に尽力した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			
○道徳の教科化への対応と授業の充実	年間指導計画の作成	計画通り実施	5	授業改善や評価方法等について研修を行った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			



第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進	○体験活動、地域人材、地域教材を生かした学習指導の推進	27校で実施	27校で実施	4	(4.5)	伝統芸能、地場産業等を生かした学習指導を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○狭山茶とふれあう教育の推進 (小学校:茶摘み体験、手揉み茶体験 中学校:茶道(盆点前)体験)	27校で実施	27校で実施	5		茶摘み体験を16校、手揉み茶体験を15校実施した。盆点前体験は全11校の中学校で実施した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○入間市博物館での学習をととした郷土教育(歴史・文化・狭山茶)の充実	27校で実施	27校で実施	5		歴史学習は、小学校で縄文を、中学校で中世を全校で学習し、理解を深めた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○外国語活動・英語教育の充実や英語指導助手(AET)とのふれあいをとおしてのグローバルな視点と感覚の育成	27校で実施	27校で実施	4		新学習指導要領完全実施に向けて、外国語活動・英語教育の授業改善を図った。学校規模に応じて、各校にAETを配置し、グローバルな視点と感覚を育成した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○体育授業、体育的活動の量的確保と指導内容の充実	27校で実施	27校で実施	4		小学校では30分以上、中学校では35分以上の運動場を確保できるように全ての学校で授業改善に努めた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○新体力テストの結果分析を活かした指導及び体育指導の質的向上を目指した研修の実施	27校で実施	27校で実施	4		新体力テスト結果個票を全児童生徒に配布し、自らの最高記録を達成できるよう目標設定ができるようにした。小学校・中学校それぞれ授業研究会を開催し、指導方法の質的向上に努めた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校全体の体力向上を目指した教育活動の工夫改善と学校への支援の充実	27校で実施	27校で実施	4		市内9校の体力向上策を体力向上推進委員会広報誌に掲載して、市内全家庭に配布した。学校・家庭・地域で連携し、体力向上への意識向上に役立った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○全小・中学校の全学年を対象とした交通安全教室の実施	27校で実施	27校で実施	5		全校で実施し、実技や講義、DVD視聴等を通して交通ルールを改めて確認したことで、児童生徒の交通安全に対する意識の向上に役立った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○自転車運転免許の取得(全小学校4年)と自転車運転免許更新(全中学校1年)の実施	27校で実施	27校で実施	5		全校で実施し、実技や講義、DVD視聴等を通して交通ルールを改めて確認したことで、児童生徒の技能が向上し、交通安全に対する意識の向上に役立った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○危険回避能力を育てる避難訓練の実施と防災訓練への参加促進	27校で実施	27校で実施	4		全校で実施することができた。中学生が防災訓練に参加した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○ヘルメットの着用の推進	27校で実施	27校で実施	4		着用の推進を図ることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○栄養教諭等の活用による「食に関する指導」の推進	5校で実施	5校で実施	4		中学校では出前授業が行われ、食育の推進を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「入間市学校食物アレルギー対応マニュアル」に基づいた対応の実施	27校で実施	27校で実施	5		今年度より全校で統一した対応ができた。マニュアルのわかりにくい部分は、補完資料を作成し、全校に配布することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○国民運動「早寝、早起き、朝ごはん」の推奨	保健指導を中心に養護教諭と連携し、全27校で実施	計画通り実施	5		計画どおり実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○地場産の農産物等の学校教育への活用	27校で実施	27校で実施	5	ふるさと学校給食月間を利用し、地場産野菜について児童生徒に知ってもらうことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進	○旬の食材の使用や行事食の提供等を通じて、食文化への理解を促すとともに、健康な体を育むための、食の大切さ等を児童生徒・保護者へ伝える手作り給食を提供(月1回の行事食の提供)	毎月実施	毎月実施	5	4.5	国内産の食材を使用した季節感のある給食の提供が出来た。これらについて、献立表や給食だより等での周知を図った。	児童・生徒の知的好奇心を刺激し、学び、知ることが心を豊かにし、生きる喜びにつながることを実感できる給食の提供のため、献立立案会議や学校給食打合せ会等により、引き続き取り組んでいく。	学校給食課
		○安全な給食食材の確保をするため各種検査を実施 目標実施回数 (1)食中毒菌検査 年2回 (2)食品理化学検査 年2回 (3)給食1食分全体の放射性物質測定の実施(全体検査 年17検体)	計画通り	計画通り実施	5		食中毒等の事故を起こすことも無く、安全安心でおいしい給食の提供ができた。	今後も、衛生管理の徹底が必要である。	学校給食課
		○地場産(県内産・入間市産)の農作物を使った献立の提供	25%	23%	4		地元(市内)生産者提供の食材による給食の提供ができた。	食材品目を増やすため、更なる農政担当との連携が必要である。また、農産物の不作や雪等による収穫ができないときの対応も必要となる。食材品目を増やすため、関係課等と調整を進めていく。	学校給食課
		○調理場のドライ運用の徹底及び推進	100%	56%	3		調理場がドライシステムになっていないため、ドライ運用に準じた方法で作業を行っている。	給食施設の改修等に伴ってドライシステムに変更したいが、市の計画との整合性から、なかなか計画が進展しない。	学校給食課
		○給食の安全を確保するため、調理員等への各種研修を実施 目標実施回数 (1)衛生研修 年1回 (2)食育研修 年1回 (3)衛生講習会への参加 年1回	計画通り	計画通り実施	5		計画していた研修を実施できたことにより、衛生意識の更なる向上と職員知識の向上が図れた。	研修の不参加者に研修資料を配付し、レポート提出を義務付けた。	学校給食課
		○衛生管理基準に基づく保菌検査等を実施 (1)保菌検査 月2回 (2)ノロウイルス定期一斉検査 年1回	計画通り	計画通り実施	5		食中毒等の事故を起こすことなく、安全、安心でおいしい給食の提供ができた。	今後も、衛生管理の徹底が必要である。	学校給食課

第2項 子ども・子育て支援の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)幼児教育の環境整備	①子ども未来室事業の推進 ②幼児の通級指導とおとした支援 ③保護者への情報提供と支援 ④保・幼・小・中連携のための接続研修会の実施	○幼稚園、保育所、小・中学校への巡回支援とその充実	400回	400回未満	4	4.6	回数は目標に達することはできなかったが、1度の訪問で複数の教員の指導を行うなど方法を工夫し、指導助言を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○巡回支援、研修会をととしての保育士・教師等への支援の充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回 ・巡回支援の実施	・2回 ・400回未満	4		研修会や巡回支援を通して、保育士や教師が子どもや保護者に対しての支援の仕方を向上させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○親の不安軽減を目指した支援の充実	茶おちゃお保護者講演会の実施4回(臨床心理士・作業療法士による)	4回実施	5		茶おちゃおに通う保護者に講演会を行うことで、保護者の不安の解消や子どもへの具体的な支援の仕方について理解を深めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○市長部局(こども支援課、保育幼稚園課、健康福祉センター)との連携の充実	子どもの発達に係る連携会議5回	5回実施	5		市長部局との話し合いを行う中で、連携の方法の具体的な方向性が見えてきた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○コミュニケーション能力や感情のコントロール、集団生活での適応能力や自己肯定感の醸成を目指した幼児の通級指導「茶おちゃお教室」の充実	2週間に1度ずつ、後半はグループの人数を増やして実施	計画通り実施	5		小学校への入学に向け、2・3人のグループから5・6人のグループでの指導へと人数を増やすことで、集団生活に向け準備を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小学校との連携をととした指導体制の整備と充実	遊びと学びの手引きの活用100%	100%活用	5		「遊びと学びの手引き」を活用することで、幼保から小への接続がスムーズに行うことができる体制を整えることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○幼稚園、保育園にて親の不安軽減を目指した「親の学習講座」の実施	36園・所のうち半分を実施	17園・所で実施	4		少人数の参加型の講座を実施することができた。保護者の方の好評を得ている。	多くの園・所で行えるよう広めていく。新たな講師を確保する。	学校教育課
		○子育てに関するノウハウなどの情報提供と親に寄り添った支援の充実	特別支援学級と通級保護者対象に年3回ずつの研修会の実施	特別支援学級と通級保護者対象に年2回ずつの研修会の実施	4		それぞれ2回の実施ができた。専門性の高い講師の招聘、人間わかくさ高等特別支援学校の見学等、充実した講座ができた。	保護者のニーズに応じた講座を実施する。	学校教育課
		○保育士、教諭等を対象とした発達障害への理解と適切な対応方法等を学ぶ研修会の実施とその充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回	2回	5		今年度も多くの保育士や教師が研修会に参加し、研修で学んだことをすぐに実行に移し、成果をあげている施設や学校が多くあった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○異校種間のなめらかな接続のためのスキル獲得に特化した研修会の実施とその充実	・遊びと学びの手引き研修会 1回 ・保幼小中連携研修会の実施 2回	・1回 ・2回	5		幼保から小への接続や小から中への接続がスムーズにいような工夫を研修会の中で多く行い、充実した研修を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課

第3項 学校施設の整備

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1) 学校施設の充実・最適化	① 校舎・屋内運動場の整備	○ 小中学校施設における維持管理	79業務	104業務	5	4.8	各施設の維持管理、設備の保守点検は予定どおり実施し、臨時かつ緊急に必要となった業務についても、関係部署と調整して対応できた。また、点検時の指摘事項を基に、修繕や改修工事の実施に繋げることができた。	施設の老朽化が進んでいるため、修繕をしても、新たな指摘があり、指摘事項が思ったように減少しない。保守点検の指摘事項を改善できるよう、一覧表を作成し、修繕関係書類として活用している。	教育総務課
		○ 小学校施設における整備事業の計画的な推進 (1) 長寿命化計画(個別計画)作成業務委託 (2) 黒須小学校外1校屋内運動場共用便所改修等工事実施設計業務委託 (3) 金子小学校防音機能復旧工事 (4) 藤沢小学校煙突改修工事 (5) 藤沢南小学校フェンス改修工事 (6) 豊岡小学校外4校消防設備(非常放送設備等)改修工事 (7) 扇小学校給食用エレベータ改修工事 (8) 障害のある児童等に係る施設改修工事 (9) 合理的配慮の提供に係る改修工事	16事業	25事業	4.5		改修工事を予定どおり実施し、老朽化に対応する工事に加え、台風による災害など、不測の事態も柔軟に対応できた。また、学童保育室の設置に対応する施設整備など、各学校からの特有の要望や条件があったが、予算を効果的に執行することができた。 長寿命化計画(個別計画)作成業務委託については、令和2年度中完成を目指し、繰越しとなった。	老朽化に起因した不測の事態が生じたり、近年は天候不順による災害など、不測の事態となるケースが続いており、関係各課との連携を強化している。また、市及び市民の防災への意識が向上しており、災害時の避難所となる屋内運動場の雨漏りや男女別トイレ、多目的トイレの改修なども計画的に進め、校舎のトイレ改修など時代に適した施設整備を進めていく必要がある。 今後は、公共施設マネジメント事業計画や、教育委員会の『入間市立小・中学校の適正化に関する基本方針』に基づき、統廃合や大規模改修、長寿命化、改築工事等を計画的に進めていかなければならない。	教育総務課
		○ 中学校施設における整備事業の計画的な推進 (1) 長寿命化計画(個別計画)作成業務委託 (2) 黒須中学校校舎屋上防水等改修工事 (3) 東町中学校下水道本管接続工事実施設計業務委託 (4) 黒須中学校重油地下タンク内部塗装改修工事 (5) 藤沢中学校消防設備(非常放送設備)改修工事 (6) 障害のある生徒等に係る施設改修工事 (7) 合理的配慮の提供に係る改修工事	9事業	9事業	4.5		予算化した工事及び工事監理業務委託は、計画通り実施できた。	財政的な面から、国庫補助の事務を綿密に進めていく。また、令和2年度は改修工事計画の最終年度となるため、慎重に工事を進める必要がある。	教育総務課
		○ 学校施設の計画的な石綿含有煙突用断熱材除去改修の実施 (1) 小学校石綿含有煙突用断熱材除去改修工事 (2) 中学校石綿含有煙突用断熱材除去改修工事	8業務	8業務	5		予算化した工事及び工事監理業務委託は、計画どおり実施できた。また、測量業務については、他の部署と協議、連携を図り、実施することができた。	業務終了。	教育総務課
		○ 幼稚園の閉園に伴う園舎等の解体工事の実施 (1) あずま幼稚園園舎解体工事	4業務	5業務	5				
(2) 学校給食施設・設備の充実	① 学校給食センター施設・設備の整備	○ 学校給食センター施設・設備の充実 (1) 既設調理機器(昇降式食器消毒保管機、配膳台など)の更新 (2) 学校給食センター更新に係る先進地の事例等、情報収集及び調査研究をします。	計画通り	計画通り実施	5	5.0	老朽化した調理機器の入れ替え等、効率的な施設の運営管理に努めた。また、学校給食センターの更新について、関係課との協議を進めた。	学校給食センターの更新を見据えて、今後は最低限の入れ替えにとどめ、保守及び修繕により、老朽化した調理機器を使用することになる。	学校給食課
	② 自校給食施設・設備の整備	○ 自校給食施設・設備の整備 (1) 既設調理機器(ガス給湯器、牛乳保冷庫、ガス回転釜など)の更新 (2) 強化磁器食器からポリエチレンナフタレート製食器(ペン食器)への入れ替えを2校実施	計画通り	計画通り実施	5		老朽化した調理機器の計画的な入れ替え等、効率的な施設の運営管理に努めた。また、ポリエチレンナフタレート製食器への入れ替えにより、小学校はペン食器への入れ替えが完了する。		学校給食課

政策4 社会教育  
第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○現代的・社会的課題に対応した社会教育事業の充実を図り、仲間づくりや市民の主体的な学習活動を促進します。	小学生夏休み体験一覧表の作成	計画どおり実施	5	5.0	各施設で参加者を増やすことができた。	掲載事業の拡充を図り、さらに参加者の増加を目指す。	社会教育課
		○お茶と地域を総合的に学び、体験する「アリットお茶大学」の開催(受講者数目標800人)	受講者延べ1,000人	738人(大人のみ)	4		講座数を減らしたため参加人数は減少したが、受講者の満足度は高かった。	継続して魅力ある講座を実施していく。	博物館
		○地域の歴史・文化やお茶に関する資料の収集・整理、データベース化の実施	3,000件	5,733件	5		文書と植物標本整理の進展で入力数が増加した。	データ化に携わる人材、時間、予算確保。	博物館
		○地場産業の狭山茶、織物等と結びついた講座等の事業を各1事業実施	各1計2事業	3事業	5		織物1、茶2の講座やイベントの他、狭山茶に関する特別展関連事業も実施。	講座に関わる人材の育成。	博物館
		○市民に身近な博物館としての工夫した展示事業や出前講座を延べ30回実施	延べ30回	55回	5		多くの講座実施希望を受けて実施し、好評を得た。	希望件数が増加しており、全てを希望通りに受けることが難しい。また、特定の団体からの出前依頼が集中する傾向がある。	博物館
		○指定管理者による自主事業の実施	展示2回 イベント5種類	展示1回(中止1回) イベント20種類以上(中止5)	5		柔軟な発想により新規のイベントを実施することで、多くの来場者を呼び起こすことができた。なお、展示1回については、新型コロナウイルス感染症予防のため、中止せざるを得なかった。	引き続き来館者ニーズを捉えたイベントを実施していく。	博物館
		○これまで調査研究してきた成果や関連資料について紹介するアリットフェスタ特別展「史料で読み解く 狭山茶の歴史」の開催	4,000人	2,788人	4	4.7	研究成果をわかりやすく解説した展示や図録を作成し、新しい狭山茶の歴史像を紹介することができた。	市内の小中学校の児童生徒に、もっと地場産業について知ってもらえるよう、学校との連携を工夫すべきだった。	博物館
		○エントランス展示の実施	7回	4回	3		回数は少なかったが計画通りに実施することができた。	回数にこだわらず、指定管理者と共にエントランス展示の充実を図る。	博物館
		○博物館運営の自己評価及び博物館協議会による外部評価と市民への公表	外部評価実施と市民への公表	外部評価、公表済み	5		計画通りに実施することができた。	継続して実施していく。	博物館
		○常設展示の資料特別公開・テーマ展示の実施	2回	5回	5		茶道関係の資料を中心に季節毎に展示替えを行った。	今後も継続して実施していく。	博物館
		○ホームページの即時的な更新による新鮮で充実した情報提供	閲覧延べ25万回	356,926回	5		定期的では無く随時更新に努めている結果と言える。	今後も継続して実施していく。	博物館
		○市報「アリット広場」掲載	12回	12回	5		予定通り掲載された。	今後も継続して実施していく。	博物館
		○コミュニティFM放送、CATV、新聞各社等へ博物館情報を提供	20回	20回以上	5		計画通りに実施することができた。	今後も継続して実施していく。	博物館
	○指定管理者によるリニューアル版「ニュース・アリット」の発行(6回)・鉄道・バス等への広告掲出(随時)・市内大型商業施設でのチラシ配布(随時)	6回	6回	5	計画通りに実施することができた。	指定管理者の業務として移管したが、今後も継続していく。	博物館		
	○子どもの読書推進のための児童書や、調べ学習に使える図書を2,635点購入	2,635点	2,804点	5	4.5	概ね順調に購入による受入れができた。	現状を維持する。	図書館	
	○市民ニーズに応じて、健康・職業・経済に関する図書や文学(小説)、大人向け紙芝居など6,790点購入	6,790点	6,062点	5		幅広いジャンルで購入し、受入れができています。	現状を維持する。	図書館	
	○各種調査研究のための参考図書175点購入	175点	281点	5		毎月、毎年発行されている資料は、購入により受入れることができた。	現状を維持する。	図書館	
	○視力の弱い方や高齢者の読書推進のための大活字本110点購入	110点	81点	4		出版されているものは全て購入しているが、出版自体が少ないため、目標値には届かなかった。	現状を維持する。	図書館	

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○レファレンスサービス対応のため、県、地区等の研修会に積極的に参加	1回	1回	5	(4.5)	県の研修に参加し、県内の図書館職員とともに課題に取り組み、レファレンスに関する知識を得ることができた。	図書館協力レファレンス掲示版などを用いて、県内の他館と協力し、レファレンスサービスの向上に努める。	図書館
		○視覚障害者の読書推進のため、録音資料を3点作成	3点	4点	5		利用者との電話でのコミュニケーションを重ね、全国の図書館等に所蔵の無い録音図書を作成し、提供することができた。依頼時期についても適正で、時間的猶予をもって執行できた。	DAISY化が難しい資料の作成を依頼したため、ボランティアグループに負担をかけてしまった。依頼資料に合わせて、対面朗読を薦めたい。	図書館
		○ボランティア育成研修会を開催し、運営にかかわるボランティア募集と市民参加による運営の推進(年1回)	1回	0回	1		予算が確保できず、具体的な計画も立っていない。	引き続き、予算確保と計画の立案に努める。	図書館
		○「おはなし会」を全館で延べ350回開催	350回	329回	5		2/25~3/31の「おはなし会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全館中止としたが、2月までは予定通りに開催できた(本館)。ボランティア団体と協力して順調に運営している。今年度から毎週水曜日と土曜日の開催開始を10:30からとし、近隣のあんず幼稚園、杏保育園の来館が増えた。新型コロナウイルス対策に伴うイベント中止や臨時休館により、実施回数は目標回数より少なくなった(西武分館)。おはなし会回数は、ほぼ前年度並みだったが、子育て支援サークル(あいくる、くまさんサークル、大きな輪)に加えて、高齢者向けサークル(オレンジカフェ、根通り健康づくりサロン)へも読み聞かせ支援を行った。新型コロナウイルス対策に伴うイベント中止や臨時休館により、実施回数は目標回数より少なくなった(金子分館)。おはなし会は、4月から赤ちゃんタイムの実施を始め、また月1回のおはなし会工作会も好評で、引き続き多くの参加者を集められた。新型コロナウイルス対策に伴うイベント中止や臨時休館により、実施回数は目標回数より少なくなった(藤沢分館)。	今後は、回数だけでなく、より多くの子どもたちに参加してもらえよう、努めたい(本館) おはなし会は、公民館利用サークル等への読み聞かせ支援を拡大しながら分館内のおはなし会との連携を図ることにより、幼児の参加は増えてきたが、小学生の参加が大幅に減少している。小学生の参加拡大を目指し、今まであまり取り入れたことのない「語り」(素話)を取り入れて内容を充実し、幼児向けには絵本の読み聞かせだけでなく、手袋人形など小道具を利用した動きのあるおはなし会で飽きのこない工夫を図る(金子分館)	図書館
	○利用促進事業の開催(分館3館で自主事業を開催)	40回	41回	5	継続事業に加え、はじめて実施した西武寄席は、近隣自治体出身の落語家を招き、事前申込は一週間で満員に達し、参加者アンケートでは次年度の実施を希望する意見があった(西武分館)。新規自主事業として「樹木医が語る金子分館周りの自然」・「埼玉の水源地をシカ害から守ろう」・「狭山茶のルーツを探る」・「楽しく学ぶ数学」・「ブックトークコンサート」・「一般向け映画会」を実施した(金子分館)。継続事業に加え「はじめての手話」他の新規の事業を実施し、特に大人と子供が一緒に参加できる体験型のハーバリウム制作の事業を実施した(藤沢分館)。	現状を維持する。	図書館		

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○「文学講演会」を開催	100人	0人	1	(4.5)	3/15開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となってしまった。	継続して実施する。	図書館
		○「おたのしみ会」を開催	6回	8回	5		「冬のおたのしみ会」を予定通り実施した(本館)。4月の「子ども読書の日」関連で、春のお楽しみ会の回数を増やした(西武分館)。おたのしみ会は、夏冬合計で過去最高の参加者数となった(金子分館)。	産業文化センター改修により、第1集会室(和室)で行ったため、音楽(楽器の演奏)を取り入れることができなかった。来年度は検討したい(本館)。	図書館
		○「図書館だより」を年4回発行	4回	4回	5		計画通りの発行ができた。障害者用資料、また新しく入った法情報データサービス等について、読者に伝わりやすいようレイアウトを工夫した。	全館分の事業案内の校正に特に時間がかかるが、余裕をもって取り組み、本の紹介をはじめとした記事の内容をより充実させていきたい。	図書館
		○子ども読書推進策として「あれこれブックガイド」の配布(市内の全児童に配布)	1回	1回	5		市内小学校の全児童7,176人に配布することができた。	継続して実施する。	図書館
		○子ども読書推進策として「読書ラリー」の実施	300人	283人	5		昨年度より修了者が若干減ってしまったが、概ね計画通り実施できた(本館)。昨年より修了者が増えた(西武分館)。参加者数は昨年の半分強程度にとどまったが、何度も参加した児童が多かった(藤沢分館)。	継続して実施する。	図書館
		○本館閲覧席開放事業を継続(本館閲覧席利用者1日20人)	18席	12席	4		3/14～3/31は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全館臨時休館とした影響があると思うが、少ない結果となった。一定数の利用者はいるものの、一日平均で昨年度より4席減少した。	本館閲覧室は自習の利用者が中心で、図書館資料の閲覧が多くないと見受けられる。	図書館
		○視聴覚ライブラリーを活用した映画会を年24回開催	27回	21回	4		機材の不具合もなく、順調に上映できたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うイベント中止や臨時休館により、実施回数は目標回数より少なくなった(西武分館)。	継続して実施する。	図書館
		○図書館運営の自己評価及び図書館協議会による外部評価と市民への公表	1回	1回	5		計画通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○指定管理者との連携・協力による本館と分館に差異のないサービスの提供(モニタリングの実施)	2回	2回	5		計画通り実施できた。	現状を維持する。	図書館



第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実		○図書館ホームページを適宜更新し、最新情報を提供	12回	12回	5	(4.5)	計画通りに毎月記事の内容チェックをすることができた。	必要に応じて、チェック項目の更新を図る。	図書館
		○コミュニティFM放送での図書館情報と資料紹介	50回	50回	5		計画通りの出演ができた。	現状を維持する。	図書館
		○CATVでの図書館情報と資料紹介	12回	12回	5		計画通り出演できた(本館・西武分館・藤沢分館)。取材、出演が昨年より1回増えた(金子分館)。	計画通りにお知らせはできたので、今後も出演回数確保に努めたい(本館)。入間CATVに取り上げていただける回数を増やせるよう、PRなどを工夫していく(藤沢分館)。	図書館
		○「広報いるま」に図書館トピックス特集記事を掲載	1回	1回	5		特集記事で、図書館のさまざまなサービスについて紹介ができた。	今回は広報いるまの担当内で特集記事の内容を決めたが、今後、担当以外にもアイデアを聞くようにしたい	図書館
	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○高齢社会に対応した学習機会の提供	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	38事業	4.71	4.2	左記事業を実施した場合2点、関係機関等の専門性を活かした事業が実施できた場合1点、参加者が定員の70%を超えた場合1点、参加者の80%以上の人が満足と答えた場合1点の5点満点(全館の平均点)。	全体的な事業参加者の満足度は高いが、各事業において参加者の固定化が見られる。新規の参加者を獲得するため、事業の新たな周知方法や魅力ある内容について、検討する必要がある。公民館だよりによって、事業などの周知を行っているが、広報いるまの発行回数が令和3年度から月1回になる予定であり、様々な媒体を用いた情報発信、効果的な情報提供について検討する必要がある。 公民館ホームページやフェイスブックを活用し、事業実施の様子やサークル活動を紹介するなど、PRに努めている。一方で公民館ごとで活用にはばらつきがあり、検討課題となっている。 公民館事業がきっかけとなり、新たなサークル作りにつながるよう、支援が必要である。	公民館
		○健康づくりを推進する学習機会の提供		94事業	4.57				公民館
		○環境への意識を高める学習機会の提供		25事業	4.07				公民館
		○安心・安全な暮らしのための学習機会の提供		11事業	3.57				公民館
		○人権への意識を高める学習機会の提供		11事業	4.07				公民館
		○学習機会事業の提供	左の事業を研究、実施、連絡会議の開催、事業の提案	3事業	3.93		実施事業を研究した場合2点、事業を実施した場合1点、連絡会議を開催した場合1点、新たに事業を提案した場合1点の5点満点(全館の平均点)。		公民館
		○公民館HP、公民館だより等を活用した学習情報の提供	学習情報、地域の情報等の充実	学習情報の提供	4.64		公民館フェイスブックを月1回以上更新・公民館だよりを月1回以上発行した場合2点、地域情報を収集し、公民館だより等で発信した場合2点、図書、地域資料等を整備し提供した場合1点の5点満点(全館の平均点)。		公民館
		○地域情報(団体情報、地域のトピックス等)の収集、発信							公民館
		○図書、地域資料等の整備、提供							公民館



第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実 ②小中学生の親を支援する取り組み ③家庭・学校・地域等の連携の促進 ④団体支援の充実	OPTA家庭教育学級の支援	計画通り	計画通り実施	5	3.7	各PTA毎に、4～5回実施できた。	PTA役員の参加が不可欠であり、負担が多くなった。そこで、負担軽減のため4若しくは5回の選択制として実施した。令和元年度の出席状況等を検証し、実施回数等を決定する。	社会教育課
		○青少年関係団体との連携による地域教育フォーラムの開催	計画通り	休止	1		入間市PTA連合会と入間市青少年健全育成推進協議会、入間市子ども会育成会連絡協議会と共催して実施していたが、事業を開始した頃とは社会情勢が変化しており、類似する「入間市地域交流会」「地域の集い」に参加することで、補完できることにより休止とした。	今後は、必要に応じて実施することとする。	社会教育課
		○いるまキッズアカデミーの実施	計画通り	計画通り実施	5		「プログラミング教室」「漢字の成り立ちとしくみ」の2事業を実施した。	楽しみながら勉強することを目標として事業を実施しており、誰もが参加できるようにテーマを検討していきたい。	社会教育課
		○小中学生を対象とした「こどもお茶大学」の開催	延べ60人	延べ67人	5	5.0	多数の受講希望者があった。	継続して実施する。	博物館
		○市民や関係機関・関係団体との事業を実施	10事業	11事業	5		目標を上回る回数の事業を実施できた。	継続して実施する。	博物館
		○博物館ボランティア会との協働による「夏休み親子で楽しむ遊びの広場」、『むかしのくらしと道具展』関連イベント等を実施	10事業	17事業	5		予定を上回る回数の協働事業を実施できた。	継続して実施する。	博物館
		○市民やボランティアによる「アリットお茶大学」の運営を促進	10人	30人以上	5		「八木手揉み狭山茶道場」の会員が手揉み体験指導を行った。	継続して実施する。	博物館
		○子どもたちの体験を重視した「むかしのくらしと道具展」の開催	6,500人	11,081人	5		展示、広報活動の充実、会期中に指定管理者の「猿回し」「キッチンカー」等誘客事業の成果が見られ、昨年度に比べ、飛躍的な来館者数増となった。	今後も魅力ある道具展を実施していく。	博物館
		○展示室・茶室等を活用した学校授業の実施(市内全小中学校対象)	27校	27校	5		今年度も全校の利用が達成できた。	今後も継続して実施していく。	博物館
		○「むかしのくらしと道具展」を活用した学校授業の実施(市内小学校16校受入)	16校	16校	5		今年度も全校の利用が達成できた。	受入日程的に難しい面はあるが、近隣市町の学校授業の受け入れを増やしたい(今年度2校実施)。	博物館
		○学校への「出前授業」の実施や資料の貸出	5回	5回	5	狭山茶、旧黒須銀行、西洋館についての講師依頼が2校と減少した。戦争時のくらしに関する貸出資料は1セットの所有だが、時期をずらして3校の利用があった。	人数に限りがあるので、学芸員が対応する学校利用は、極力来館していただけるよう調整したい。並行して、貸出用資料セットの開発を進め、利用件数の増加につなげたい。	博物館	
		○図書館見学(小学校3年生)を市内全校で実施	16校	15校	5	4.9	希望のあった学校は、全て対応できた(本館)。計画通り実施できた(西武分館)。図書館見学は、金子小学校3年生に加えて、新しく2年生も参加するようになった(金子分館)。	参加校に対しては、今年度から貸出を希望する生徒は事前にやまばと号や図書館で利用者カードを作成してもらおうようにしたところ、生徒本人がいないと利用者カードの作成ができないことを知らず、保護者の方のみが来館されることもあったため、学校と連携してカード作成について周知していきたい(本館)	図書館
		○図書館利用教室(小学校2年生)を市内全校で実施	16校	16校	5		希望のあった学校は、全て対応できた(本館)。計画通り実施した(西武分館)。4校300人以上の児童に実施し、来館した児童から、紹介した本の問合せを多数受けた等の反響もあった(藤沢分館)。	現状を維持する。	図書館
		○子どもたちを対象とした「ブチー日図書館員」を実施	96人	92人	5		募集人数96人のところ、申し込みが定員に達した(当日欠席があり、参加人数は92人)。	現状を維持する。	図書館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実 ②小中学生の親を支援する取り組み ③家庭・学校・地域等の連携の促進 ④団体支援の充実	○学校図書館ボランティア育成のための研修会の開催	50人	63人	5	(4.9)	「読み聞かせについて」と「本の修理について」を各1回実施し、参加人数が目標値を超えた。	中学校の学校図書館ボランティアは参加が少ないので、今後も呼びかけに努めたい。	図書館
		○移動図書館車の学校への定期的な巡回を継続	8校	8校	5		移動図書館車の学校巡回に当たっては、計画通り配車できた。	移動図書館車の配車時間が合わないことから、利用しない学校があるため、配車時間を一部調整したい。	図書館
		○市内の高等学校司書教諭との連携会議を開催	1回	1回	5		高校生の読書活動等について、先生方と意見交換ができた。 本館職員だけではなく、藤沢分館職員とヴィアックスの社員にも参加いただいた会議の結果、万燈まつりのリサイクルフェアで、入間向陽高校との連携、参加につながった。 藤沢分館では、学生ボランティアの相談をした結果、豊岡高校の学生1名が当日運営ボランティアとして参加。	今後とも連携を図っていきたい。	図書館
		○配本サービスによる学校等へのサービスを継続(39か所、延べ3万冊)	39箇所	39箇所	5		定期利用・不定期利用合わせて39か所で配本を行った(定期・不定期で重複あり)。	徐々に周知され、利用団体も増加している。供給が滞りなく行えるよう、業務手順等の見直しを図る。	図書館
		○全庁的な子育て支援策の一つとしてブックスタート関連事業の継続	12回	10回	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止により、止むを得ず、2月と3月の実施を中止したが、それ以外は計画通りに実施できた(本館)。 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うイベント中止や臨時休館により、実施回数は目標回数より少なくなったが、その他は計画通り実施できた(西武分館)。 ブックスタートは毎回2名で対応し、自主事業への反響にもつながったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うイベント中止や臨時休館により、実施回数は目標回数より少なくなった(金子分館)。	目標回数の12回は、BCGの接種回数に合わせたものである。 この機会を利用して行っているため、内容的には、沢山の赤ちゃんと保護者を対象としたいが、これ以上増やすことは不可能であり、現状を維持していく。 また、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の関係で2回中止になったが、今後も状況を鑑みて、適切に実施できるよう努めたい。	図書館
		○庁内関係各課所等との連携協力による事業(平和祈念資料展、いるま環境フェア、いるま子育てフェスティバル、ノンビリこそだてひろばまつり等)を実施	9事業	8事業	5		3/5「ノンビリこそだてひろばまつり」(二本木公民館主催)が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、8事業の実施となった。	継続して実施する。	図書館
		○「おとなのための朗読会」(1回)を各種団体との協力で開催	1回	1回	5		計画通り実施できた(西武分館)。	「おとなのための朗読会」の参加者が減少しているため、方策を検討したい(西武分館)。	図書館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実	○「古典朗読会」(12回)を各種団体との協力で開催	12回	11回	5	(4.9)	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うイベント中止や臨時休館により、目標の回数には1回届かなかったが、朗読を聴くだけでなく全員で一緒に声を出す参加型のコーナーを始めたことで、新たなリーダーを獲得することができ、参加者も増加した(藤沢分館)。	現状を維持する。	図書館
	②小中学生の親を支援する取り組み	○地域の力を生かした子育て支援事業の実施	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	32事業	4.07	4.4	左記事業を実施した場合2点、関係機関等の専門性を活かした事業が実施できた場合1点、参加者が定員の70%を超えた場合1点、参加者の80%以上の人が満足と答えた場合1点の5点満点(全館の平均点)。	公民館を会場に行われる子ども食堂等の居場所づくりをはじめ、地域ぐるみで子どもを育てる社会を目指し、運営主体となる団体が円滑に実施できるよう今後も支援していく。 地区公民館としての子育てサークルの役割が変わってきている中、関係団体と協力し、サークル等に参加していない地区住民の親子が事業に参加し、親同士が交流を図れるよう支援していく必要がある。	公民館
	③家庭・学校・地域等の連携の促進	○家庭教育向上のための学習機会の提供		5事業	4.64				公民館
(3)青少年教育の充実	①体験機会の充実	○令和2年(2020年)成人式の開催	計画どおり	計画どおり実施	5	5.0	出席率は71.5%であった。 今年度より、中学生ボランティアを募集し、想定数を超える応募があり、51人が受付業務や来賓接待を行った。	安心、安全に実施できるように事業運営を行っていく。	社会教育課
	②居場所づくりの充実 ③青少年関係団体の支援の充実 ④青少年を対象にしたスタッフ及びリーダー養成	○青少年の豊かな心を育む事業の実施	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	98事業	4.14	4.1	事業を実施した場合と参加者の80%以上の人が満足と答えた場合は5点満点(全館の平均点)。	青少年体験事業は、地域のボランティアや関係団体との連携による事業の企画を引き続き検討していく。事業を実施するスタッフの確保が必ずしも十分ではないため、今後も引き続き関係機関と協力していく必要がある。 また、地域の団体が主体となって実施している事業については、公民館として地域交流・世代間交流につながる事業と捉え、協力していく。	公民館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(4)文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援	①指定文化財の保護 ②文化財保護啓発事業の実施 ③近代化遺産の保存・活用 ④埋蔵文化財の保護 ⑤伝統文化活動団体の支援の充実	○指定文化財の新規指定に向けた審議の実施(3回)	3回実施	2回実施	5	5.0	新型コロナウイルス感染症の影響で審議の回数は減ったが、それまでの審議内容を踏まえ、各委員と文書によるやり取りを行うことで、予定どおり新規指定文化財の答申を受けることができた。また、旧黒須銀行保存活用基本計画に関しても貴重な意見をもらい、今後の策定に向けての参考とすることができた。	調査・研究により文化財の価値を高めることで、保存につなげるとともに、活用についても積極的に取り組んでいく必要がある。	博物館
		○指定文化財保存事業への支援(事業計画数2件)	2件	3件	5		指定文化財の保存に必要な事業に対して、適切な支援を行い、文化財の保存を図ることができた。なお、当初予算では2件を予定していたが、急遽支援が必要な事業が発生したため、県と調整することで、3件の文化財について支援を行った。	市の補助金では対応できない場合もあることから、民間企業の助成金の情報等を収集し、適宜所有者等へ提供していく。また、今後補助額が高額になる事業が見込まれることから、所有者等との連絡をより緊密に取っていく必要がある。	博物館
		○指定無形民俗文化財保持団体の後継者育成事業を支援(6団体)	6団体	6団体	5		指定無形民俗文化財等の保持団体が行う後継者育成等の事業に対して、支援が必要な6団体へ補助金を支出し、文化財の保存を図ることができた。	引き続き保持団体の事業を支援していくとともに、無形民俗文化財のPRを効果的に行うことで、多くの後継者が生まれるように努めていく必要がある。	博物館
		○文化財講座、文化財防火演習の開催(計5回)	5回	4回	5		公民館との共催による文化財めぐり(1回)、西洋館に関する講座(2回)を開催することで、市民の文化財保護意識の啓発を図ることができた。また、豊岡地区の高倉寺観音堂で入間消防署と共催による文化財防火演習を実施し、文化財防火意識を高めることができた。なお、宮寺公民館と共催の「文化財めぐり」は荒天(6月)と新型コロナウイルス感染症拡大防止(3月)の影響で、次年度以降に延期となった。	身近な文化財の紹介を通じて、日常的に文化財に親しむ環境を整備していく。また、公民館や図書館等と連携することで、より多くの市民に文化財に関心を持ってもらう場をつくり、文化財の保護啓発につなげていく必要がある。	博物館
		○西洋館公開活用事業の実施(入館者数3,000名)	3,000名	3,785名	5		新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた一般公開や事業が中止となったが、建物の一般公開を7月から11月までに42日間、西洋館の魅力を生かした主催・共催事業を計11事業実施した。入館者は、一般公開で2,477人、他の事業で1,308人、延べ3,785人であった。多くの人に西洋館を知ってもらうことができ、保存につなげることができた。	引き続き一般公開や様々な事業を実施していくことで、西洋館のPRと保護啓発につなげていく必要がある。また、より効果的な情報提供の手法を研究し、実施していくことで、来館者数の増加を図っていく。	博物館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(4)文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援	①指定文化財の保護 ②文化財保護啓発事業の実施 ③近代化遺産の保存・活用 ④埋蔵文化財の保護 ⑤伝統文化活動団体の支援の充実	○旧黒須銀行公開事業(竣工120年記念)の実施(6回)	6回	4回	5	(5.0)	5月2・3日に竣工120年を記念した祝う会と特別公開を実施し、521名の来館者があった。渋沢栄一が新1万円札になる話題性でプレスリリースを実施した。隣接する西山荘ストリートや団体との連携で関連イベントも実施した。建物内の模様替えも行い好評を得ている。2月には広報しているまで特集頁を設け、公開日や大掃除などの活動を周知した。3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公開が中止となり、実施回数は4回となった。	修復後の活用方法や運営方法の具体的な検討を行う必要がある。	博物館
		○旧黒須銀行の保存活用にに向けた整備計画の検討(検討委員会開催)	検討の実施	会議の開催	5		10月より旧黒須銀行保存活用基本計画策定検討市民会議を設置し、有識者や公募市民を含む10名で会議を行った。会議は新型コロナウイルスへの対応で1回延期となったが、年度中に3回開催し、基本計画について検討を進めることができた。	市民会議は次年度以降も実施し、9月頃に保存活用基本計画を公表する予定。	博物館
		○埋蔵文化財の調査及び報告書の刊行(全調査箇所)	報告書刊行	報告書刊行	5		開発に先立つ試掘調査を12件実施し、遺跡の所在確認と適切な保存に努め、調査結果を調査報告書として刊行することで、市民の埋蔵文化財への関心を高め、保護につなげることができた。	引き続き試掘・発掘調査等を実施していくことで、埋蔵文化財の保護を図っていくとともに、調査に対応できる体制を整備していく必要がある。また、調査した遺跡等の情報についても発信していくように努める。	博物館
		○地域の伝統文化を守り育む事業の実施	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	3事業	4.11	4.1	事業を実施した場合と参加者の80%以上の方が満足と答えた場合は5点満点(全館の平均点)。	郷土芸能の普及と発展のために、高倉ばやし親子教室や市内の文化財めぐり等を実施しているが、地域の伝統文化の魅力が伝えられるような事業に積極的に取り組んでいく必要がある。	公民館

第2項 社会教育施設等の整備

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)施設の充実・最適化	①博物館施設の充実 ②図書館施設の充実 ③公民館施設の充実	○常設展示室の改修計画の研究	研究の進展	進展あり	4	4.0	常設展示室改修によって削減できる事業予算を洗い出し、実施計画に計上した。	常設展示室改修によって、博物館事業の全体を見直し、スクラップ・アンド・ビルドを進める。	博物館
		○図書館情報ネットワークシステムの安定的運用を行うため、運営体制を整備(事故回数をゼロとする)	0回	0回	5	5.0	利用者に影響が及ぶシステムダウンは発生しなかった。	今後とも適切な運用を心掛けるとともに、不具合発生時に迅速な対応が取れるよう情報共有を図る。	図書館
		○埼玉県西部地域まちづくり協議会図書館部会を3回開催	3回	3回	5		西部地域まちづくり協議会において、予定通りに図書館運営の調査・研究がされた。	現状を維持する。	図書館
		○本館内資料持ち運び用ショップかごの購入、利用者用コピー機の更新等、本館の館内設備の充実を図る	1件	3件	5		利用者用コピー機の更新、法令データベースの導入、本の消毒器の新設(寄贈)ができた。	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館
		○西武分館参考資料室空調設備の交換修繕、その他の館内設備の充実等、分館の館内設備の充実を図る	2件	3件	5		参考資料室空調設備改修工事、館内用カゴの設置、一日図書館員事業で使用する子ども用エプロンの購入などが実施できた(西武分館)。グリーンカーテンは、キヅタなどの常緑樹に変更、文化協会から寄贈を受けた郷土資料(金子をゆく)の充実、大人向け絵本コーナーを書架袖に設置、児童用のカゴの設置、おはなしコーナーのジョイントマット敷き詰めなどが実施できた(金子分館)。ティーンズ書架にシリーズ別置を増設、館内用カゴの設置、懐中電灯の設置、救急用品や館内清掃消臭用消耗品の見直しと追加、館内利用者への注意喚起掲示の工夫(「お・か・し・も」)、個別閲覧席の掲示をわかりやすい形で追加、事業等の案内掲示の増設(木製イーゼルにより入口と児童コーナー)、一般雑誌書架への最新号についての注意書きを掲示、空調設備からの水漏れへの対応(業者による全体の現状チェックを公民館に相談し実施)など実施できた(藤沢分館)。	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館
		○住民の多様な生涯学習活動に対応した施設整備の充実 (1)藤沢公民館玄関庇防水修繕 (2)公民館非常用照明設備修繕 (3)公民館誘導灯設備修繕 (4)公民館自動火災報知設備修繕 (5)公民館自家用電気工作物修繕	工事・修繕を実施する	施設修繕69件 洋式トイレ設置工事(1館)	5		5.0	限られた予算の中で、優先度の高いものの実施ができた。	工事・修繕については、施設の老朽化に対し、対応が追いついていないのが現状であるが、限られた予算の中で優先度を判断し、緊急性の高いものから順次を実施していく。公民館のバリアフリー化対策として実施しているトイレの洋式化については、毎年計画的に実施していく。
		○バリアフリー化、環境等に配慮した計画的な施設整備の推進 (1)バリアフリー化洗浄機能付洋式トイレ設置工事 (2)バリアフリー化トイレ手すり設置工事 (3)東町公民館受電設備改修工事			5	公民館			